

2-1 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法 及び予測結果	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	・静岡県、埼玉県の茶研究機関が位置する地点で 現況の再現性を確認した結果、静岡県では再現性 が高い(実際の摘採日・萌芽期と予測結果に0～1 日の差)のに対して、埼玉県では再現性がやや劣 る(3～6日の差)。 ・また、予測モデルについて、降水量や冬～春以 外の期間の気象も考慮することで再現性が向上す る可能性がある。
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点が あった	
			現況再現を実施していない	
	(影響予測手法) 他地域での応用可能 性		気候シナリオを入れ変えれば、他地域でも実施可能	本調査で作成した予測モデルは、温帯域の地域で の予測には適しているが、温帯域以外の地域で活 用するためには、一番茶生育データ(萌芽期・摘採 日)を追加した予測モデルの作成が必要となる。
		○	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域で も実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レ ベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	一番茶生育期間の早期化に伴うリスクを確認する ためには、摘採期・萌芽期の予測結果を用いた計 算が必要となるため、コンサルタントや研究者のサ ポートが必要である。
		○	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタント や研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	以下の検討が課題である。 ・気温以外の気象要素、冬～春以外の期間の気 象も考慮した予測モデルの構築 ・「やぶきた」以外の品種に対する摘採期への影響 の解明(予測モデルは「やぶきた」種を対象として いる) ・凍霜害リスクの評価に関し、冬季の温暖化が春 季の茶芽の耐凍性に及ぼす影響の解明
		○	概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに 検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
			行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必 要	
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	一番茶の生育期間の早期化に伴うリスクに即した 適応策が提示されている。
		○	影響予測結果に対応した適応策を提示した	
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な 適応策の提示を行った	
	導入可能性	○	他地域で実施・導入が可能である	温帯域の他地域では実施・導入が可能である。
			本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要 である	
	他分野との関連性		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	他の分野への相乗効果、副次効果は想定できな い。
		○	対象分野のみに効果がある	
			他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際 に留意が必要である	
	適応策の多様性		適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	一番茶の生育期間が早期化することにより生じる リスクを踏まえ、4つの適応オプションを提案した。
			適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などか ら適応策検討の視点が限られていた	
		○	調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提 示できた適応オプションも限られた	

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。